

いまでは春日部がふるさと 海外から戻ると安心する

10歳でパキスタンから来日して7年。外国人スピーチコンテストで一般審査員賞を受賞したジョハム・ナフィースさんが感じる春日部の魅力とは。

ジョハム・ナフィースさんは、埼玉県立春日部高等学校の定時制に通う3年生。

同校の定時制は日本語指導があり、多国籍の生徒が多く通う。英国での生活経験もあるナフィースさんは、3カ国語が話せるトリリンガル。多国籍のクラスメイトたちと自在に話ができる。

「春日部高校は本当に楽しい。友だちとおしゃべりするのも大好き」

春日部に住むようになったのは、来日の半年後。都内から引っ越してきた。

「春日部は時間の流れがゆっくりで、住んでいる人も親切ですね」

例えば、人とぶつかるとお互いがすぐに謝る。そんな人のやさしさを実感することが少なくない。

将来は世界を駆けまわるジャーナリストになるのが夢と語る。

「ここに行ったらとしても、春日部を思い出すとと思う。このまちは何より気持ちが落ち着きます。私のふるさとですね」



ジョハム・ナフィースさん
市内で貿易会社を営む父と、専業主婦の母、自身を含めた兄弟4人の6人家族。全員で市内に住んでおり、春日部在住歴は7年。



19回目となる今回は中国、アメリカ、ミャンマーなど8カ国12人が発表し、受賞者は3人。ジョハム・ナフィースさんは「我慢すれば、夢は叶えられる」で一般審査員賞を受賞した。

 **kasukabe PROJECT:05**
外国人スピーチコンテスト

春日部市をはじめとする埼玉県内で生活している高校生、大学生、社会人、主婦などの外国人の方が、日頃の生活で感じることや将来の夢といった自由なテーマで日本語によるスピーチを行うことで、異文化理解を促進するもの。春日部市国際交流協会(KIFA)と市の共催。第19回は平成27年2月1日、春日部市中央公民館講堂で開催された。